



子どもたち先生方の笑顔のために

# 共に歩まん

壁面に掲示してご活用ください

令和5年2月20日発行

第25号

中信教育事務所

ご意見はこちら→



←過去の「共に歩まん」はこちら

## シリーズ「キラリ☆先生方の実践」

【外国語科編】 木曾町立開田中学校 武田 彩実 先生

第2学年 「ALTの先生に木曾町の紹介文を書こう」

### 武田先生のキラリ☆

生徒が相手意識をもって考えを英語で表現してほしいと願った武田先生。ALTに木曾町を紹介する文を書く場面。

武田先生：「What do you like to do?」  
ALT：「I like playing golf very much.」  
(さらに趣味等についても話す)

ALTの話を受けて、武田先生は  
「Where is a good place for him?」  
と生徒に投げかけました。

生徒が相手意識をもってALTに自分の考えを表現することができるように、ALTが趣味や好きなことを語る時間を設けるなどの工夫をしました。

### キラリ☆から生まれた子供の姿

ALTのお話を聞いた後で、

A生：「ゴルフが好きだって」

B生：「ゴルフ場あるよね」

A生：「Green and beautiful place!」



“First, I recommend the country club.”とICT端末に打ち込むA生。それを見た武田先生は、「What can we do there?」と尋ねました。すると、B生がA生の英文を受けて、“You can play golf and take beautiful pictures. You can see Mt. Ontake.”と書き加えました。武田先生とALTのやり取りや投げかけを通して、「私たちのALTの先生に木曾町を楽しんでもらうために、私は“ゴルフ場”のことを伝えたい」という相手意識と意思をもって表現していく生徒の姿につながりました。

【理科編】 木曾町立木曾町中学校 石原 広貴 先生

第3学年 小单元名「水中ではたらく力」

### 石原先生のキラリ☆

①小単元の導入場面で、生徒が学習の見通しをもてるように、「浮沈子(ふちんし)」を提示し、じっくり観察したり、自由に触ったりする時間を設け、生徒の気付きや疑問を引き出しました。

②水に入っていない浮沈子を提示するとともに浮いている時と沈んでいる時の違いに着目するように促しました。

③仮説をクラウド上で共有し、吟味する時間を十分確保しました。

浮沈子



### キラリ☆から生まれた子供の姿

①ペットボトルを押すと浮沈子が沈み、はなすと浮いてくる不思議な現象に、「どうして沈んだり浮いたりするのか?」「ナットだけだと沈むのになぜ浮いているのか?」と様々な疑問が上がり、問いをもち夢中になって追究する姿につながりました。

②A生は、浮沈子の中の水の量の変化に気付き、「浮沈子の中に水が入ることで浮沈子全体が重くなり、水よりも密度が大きくなるから沈むのではないか」と既習内容を関連付けながら自分なりの仮説を立てることができました。

③浮沈子に水が入ってくる理由にこだわったA生。B生の「空気は押し縮めることができるが水は押し縮めることができない」という考えに触れ、自分の考えを修正していきました。

